

ばく りゅう
麦粒

2025. Spring

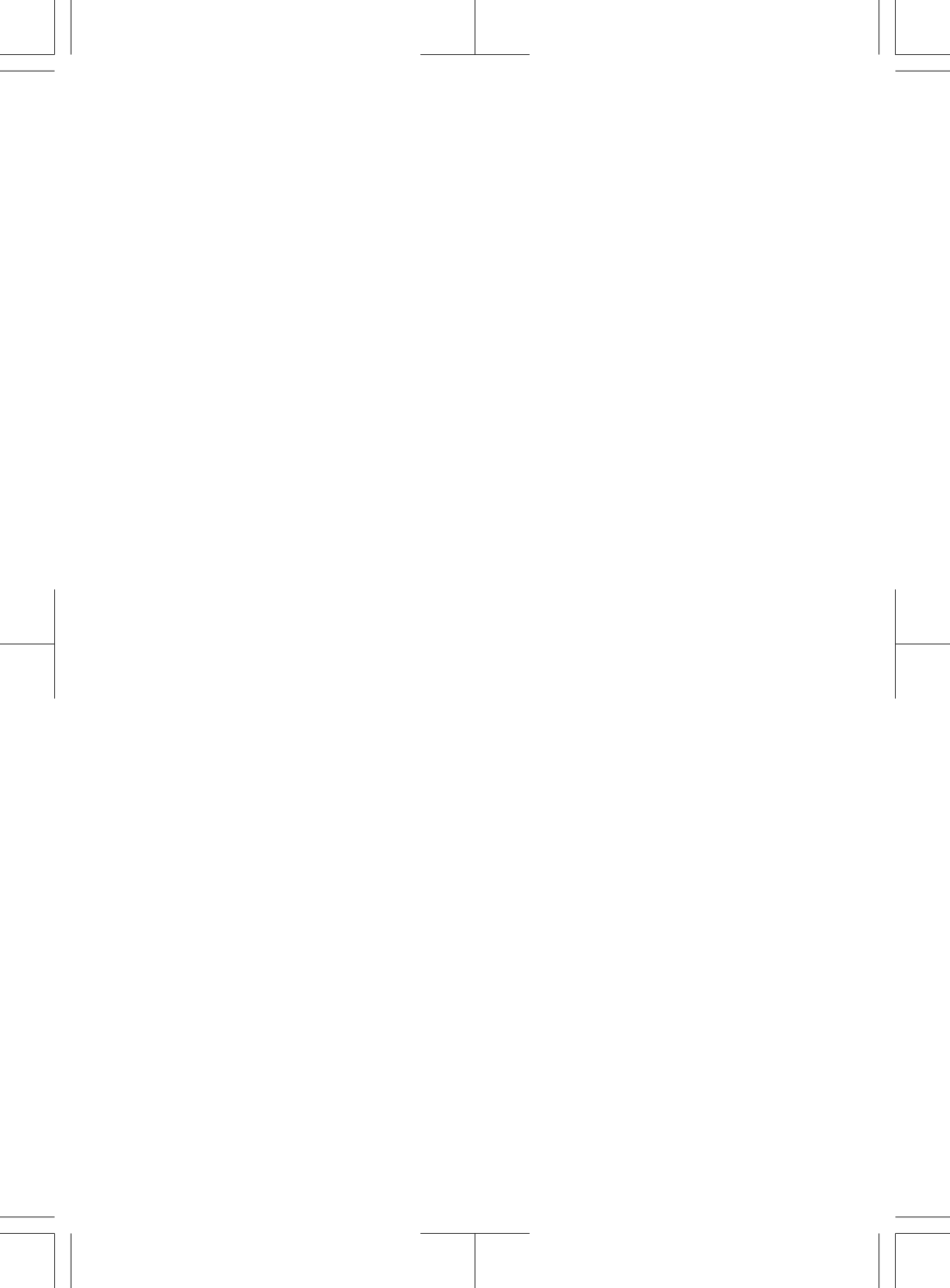
麦粒／NO. 145

発行・キリスト教センター

目 次

- 「分断の時代に主の和解を」…………… 大藪 博 康（3）
- A Rich Life…………… P.R.Morrow（8）
- 「子どもを愛するイエス様」…………… 江連みのる（11）
- 新入生の皆さんへ……………（15）





「分断の時代に主の和解を」

大 藪 博 康

キリストは、私たちの平和であり、二つのものを一つにし、ご自分の肉によって敵意という隔ての壁を取り壊し、数々の規則から成る戒めの律法を無効とされました。こうしてキリストは、ご自分において二つのものを一人の新しい人に造り変えて、平和をもたらしてくださいました。十字架を通して二つのものを一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼしてくださったのです。

(エフェソの信徒への手紙 2章14～16節)

60年、神様がこの名古屋学院大学を守ってくださいました。これからの歴史も神様がこの大学と共にあります。名古屋学院大学は神様が建てた大学だからです。私はそう信じています。

わたしは名古屋中学校、高等学校で27年務めさせていただいています。おそらく学生の皆さんが生まれる前からお世話になっています。名古屋学院大学はもと名古屋中高から生み出されました。さまざまなことがあり、中高と大学は分離してしまいました。経営的な問題でした。その頃の先生方、諸先輩方のさまざまな思いがあることを少し聞いております。この学校に残念ながら分断の歴史があったことを聞いています。しかしわた

しは分断の歴史はあったが、今は中高と大学が和解の道を歩み、互いに交流し、協力しながら教育の業に励む時だと思っています。

名古屋学院の歴史の始まりに思いをさせたいと思います。名古屋学院は最初名古屋英和学校として始めました。明治20年、当時日本ではキリスト教はいらな

いとされていました。そこに分断がありました。クライン宣教師はキリスト教文化が花開いた横浜ではなく、日本の伝統的宗教の強い名古屋の地にあえてやってきて学校を作りました。キリスト教徒であるということだけで石が投げつけられたようです。英語は学びたいけど、キリスト教はいりませんという時代です。当

時の日本の教育行政とクライン博士は激しく対立したのであります。そこに大きな分断状況がありました。クライン宣教師は国から聖書を教えるてはならないと命令されていました。しかしキリスト教学校として聖書を基とした教育を行うことを諦めませんでした。敬神愛人の言葉を学校の土台にしっかりと据えられました。彼の全身全霊をかけた働きによってこの学校はスタートしました。また彼はアメリカの教会をめぐり、献金を捧げてもらい、その献金を携え名古屋の地に立派な西洋風の校舎を建てられました。多くのアメリカのクリスチャンの祈りのこもった献金によって、この学校は第一歩を踏み出したのであります。クライン博士は猛烈に働いた、その結果体調を崩してしまい生徒たちに惜しまれながらアメリカに帰国されていきました。

クライン博士の帰国後やってきたのがモルフィー宣教師でした。学校で聖書また音楽などを教えていた明るく穏やかな先生で生徒達から慕われていました。このモルフィー宣教師の教会に遊郭で働く女性が逃げ込んできました。そしてその女性を助ける活動を始めます。貧しさ故に売られて一生遊郭で働かされる女性たちを解放するために、モルフィーは立ち

上がります。時には大須のヤクザと大乱闘、血を流しながら戦ったのであります。貧しい女性を売り物として良いという価値観と、女性の人権を守るという価値観、そこに大きな分断がありました。やがて廃娼運動の父と呼ばれたモルフィーは多くの日本人女性を救いました。そして帰国後もアメリカの地で在米日本人のために尽力されていきました。アメリカ人と日本人との間に立って両者の和解のために働かれた生涯でありました。

名古屋英和学校開校から9年目、当時の時代のヒーローがこの学校にやってきました。内村鑑三です。キリスト教の側からすればヒーローですけれども、多くの日本人からは嫌われていたかもしれません。わずか半年でしたが名古屋英和学校の生徒と授業をすることが、内村にとってとても楽しかったと語っています。親友であった新渡戸稲造へ宛てた手紙に、「僕はとてもエンジョイしている。」と記しておられました。内村鑑三は二つのJに仕えると語り、それを生涯にわたり実践していきました。ジャパンのJとジョージアのJ、日本とキリスト、日本人ならばキリスト教を捨てろと言われた時代、内村は相対するものを自分の中で一つに統合することを実践していきました。日

本を大切に、キリスト教も大切に
する。当時のほとんどの人々は日本か、キ
リスト教か、どちらで生きるのかとそう
いうふうに問いました。二者択一。日本
を大切にすればキリスト教を捨てな
ければならなかった、キリスト教徒とし
ているならば非国民として生きること
になる。そこに分断がありました。内村は
この分断を乗り越えるために生涯、生き
たのです。両者を自分の中で和解させ
ていったのであります。

この名古屋学院の始まりに、この3人
の歩みを見る中で、皆分断状況の中、和
解を求めて生きた人生であったというこ
とが言えます。なぜ3人はさまざまな分
断状況の中で和解を呼びかけたのであり
ましょうか。それはイエス・キリストが
和解を成し遂げて下さったからに他なり
ません。神と人間との分断、人間同士の
分断、そのただ中に主イエスはこられた
のであります。ユダヤ教社会にあった分
断、それは律法を守る人と破る人。律法
を守らない人、守れない人は罪人と呼ば
れ、社会から排除されていました。罪人
には救いがなく、生きる場所もなかった
のであります。主イエスは言いました。
「神は悪人にも善人にも太陽を登らせる
お方である」そして主イエスは「私は罪

人を招くために来た」と語りました。そ
して実際、病気の人、障害を持つ人、娼
婦、徴税人という罪人と呼ばれた人々と
食事をし、笑いあい、彼らの心に希望の
光を灯したのであります。主イエスは人
間同士の分断をなくす働きをされました。
そして神様と人間との分断を取り除くた
めに、命を捧げてくださいました。十字
架の死ということが、神様と人間との和
解の出来事になったのです。

十字架の縦の棒は神様と人間との和解
を、横の棒は人間同士の和解を示してい
ます。主イエスの十字架は和解の完成を
あらわしています。キリスト教を信じる
者の生きる道ははっきりしています。主
イエスが完成した和解の出来事を、私た
ちも実践するのであります。それが私た
ちの生き方です。この世にあって和解の
ために働くのがキリスト者の生き方です。
キリスト者が分断を叫ぶということはあ
ってはならないのです。

しかし現在もやはり分断状況がありま
す。分断が世界を覆っています。経済的
な格差社会、世界各地での紛争や戦争、
それぞれの国で見られる政治的対立、ま
た自国中心主義によるナショナリズムの
台頭、障害者差別、性的マイノリティの
方々への差別、分断して生きることが実

は人間としては楽な生き方なのであります。あまり物事を深く調べもせず、相手のことを知ることもなく、勝手な思い込みで敵とみなし、排除します。この方が楽なのであります。物事をしっかり調べ、考え、相手の状況を知り、謙遜な思いで人とかわり、尊敬心を持って人と接し、忍耐強く対話を続ける、これは本当に大変なことです。分断して生きる道は、広き門から入るということです。そして和解の道を生きるのは狭き門から入ることです。

私たちが和解の生活をするために大切なことが新約聖書コリントの信徒への手紙一13章4節から7節にあります。これはキリスト教で有名な愛の讃歌と呼ばれる場所です。和解をするためには忍耐強くなければなりません。情け深くなければなりません。人を妬んではいけません。自分のことを自慢してはいけません。高ぶった思いをしてはいけません。礼儀を大切にしなければなりません。自分の利益を求めてはいけません。いらだててはいけません。恨みを持ってはいけません。不義を喜ばず真実を喜ぶのです。神様の栄光のためにすべてを忍び、神様の業のすべてを信じ、神様の国がくるとを望み、人間の業全てに耐えなければ

なりません。

主イエスの敵を愛しなさいという言葉、これは敵を大事にしなさい、大切にしなさいということです。自分が敵と呼ぶ人にも大切な家族があり、尊敬すべきところがあり、大切な人生があるのです。敵と呼ぶ人にも大事な命があります。戦争の中に居る兵士たちは、敵対する人を一人の人間とは考えません。動物以下の存在、悪魔と呼んでまさか自分と同じ人間と考えることで殺すことができます。戦争で喜ぶ人は誰ですか。それは武器を作る人です。武器を売る人です。そしてそこから利益を吸い上げる政治家たちです。武器を作ってお金儲けをする人々が戦争を引き起こし、戦争を続けるように仕向けているのです。マモン、マモンというのは金の力ということですけれども、マモンに仕えるものが戦争をはじめ、戦争を続けているのです。彼らにとって戦争が続くことが一番大切なことです。どれだけ人の命が奪われようが全く関係ないと思っている人々です。戦争は人を殺し、地球環境を破壊します。その影響がやがて全ての人に降りかかってきます。地球温暖化のため世界は滅びの道を進んでいます。それに拍車をかけているのが戦争です。地球自体が減んでしまって、

お金になんの意味があるのでしょうか。

大学で学ぶということは、多様な考え方を学ぶことです。多様な考え方を踏まえつつ何が最も良いことなのかを選び取るための知恵を得るためです。対立している状況を和解の道へと導くために、学んだ知恵を用いなければなりません。それがキリスト教学校で学ぶ学生の意義で

あり、キリスト教学校の使命であります。

名古屋学院大学がこれからもキリストに従い、和解のための働きを続けるならば、神様は大いに祝福を与え発展して行くことでしょう。永遠なる主の恵みがこの大学に連なるお一人お一人の上にいつまでもあることを祈ります。

(おおよぶ ひろやす 名古屋中学校高等学校宗教部長 2024.10.15 大学創立記念礼拝奨励)

A Rich Life

P. R. Morrow

あなたがたを襲った試練で、世の常でないものではありません。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えてくださいます。

(コリントの信徒への手紙一 10章13節)

The title of my talk today is called rich life. But maybe it's the wrong title because what I really want to talk about is time: How time using time well can bring us to a rich life. In English we have three expressions about time. I'd like to talk about them with you.

The first one is "Time is money". Time is money. Have you heard this expression? Of course time is not money, but I think you can understand what it means. Time is like money. Time is something valuable. But it is a little different from money: We can earn money, but we cannot earn time. Time is a gift. We have only the time that we are given. It is not

something that we can buy even if we are very rich, but if we use time carefully, it can bring us happiness. Just as using money carefully can bring happiness, so also time can bring us happiness and it can make our lives rich if we use our time carefully.

The second expression is "Time is short". Time is short. I understand this expression very well, because now I'm old. There's not so much time left in my life. I don't have time to do everything that I want to do. You are young. Here in this country, in Japan, people have long lives, so you can expect to have a lot of time. But even for you, time is not forever. We don't

have unlimited time, so we must think carefully about our time. We don't have time to do everything. So sometimes we have to say no to some things. We even have to say “no” to some good things so that we have time to do the things that are important to us.

The third expression from English is “Time flies”. Time flies, like an airplane flies across the sky. When you watch an airplane fly across the sky you notice that it moves very quickly. Time is like that. Time passes quickly. You can't grab it and keep it and use it later. We cannot keep time for later. We have only today. The past is past. Yesterday is gone and we cannot bring it back. We do not know what the future will bring. We don't know about tomorrow. We only have today, we have the present, so it is very important for us to use our time today as well as we can. How well are you spending your time. Now you are university students. University should be a time for you to learn many new things, to learn about new ideas, and

to think about them deeply. But it seems to me that actually, some students don't really learn too much during university. They don't learn too much because they are too busy. They don't have time. They spend a lot of time, for working at part-time jobs, or texting friends, or playing video games, or other things. Those things are not bad, I do them, too. But we have to be careful not to use too much time for those things. If we use too much time for those things, we do not have enough time for other things that are important, like talking with family and friends, or reading books, or thinking about the things that you hear in your classes. How should you use your time? I don't know. It depends on you, and each of you is different. Each of you has something that is important to you. You need to think about what is important to you and how do you want to use your time, and not use time for things that are not so important.

Today in this very short talk I mentioned 3 expressions about Time:

Time is money, Time is short, and and think about how you will use your
Time flies. Please keep those time today to make your life rich.
expressions in the back of your mind

(P.R.モロウ 外国語学部教授 2024.6.6 しろとりチャペル Englishチャペルアワー)

「子どもを愛するイエス様」

江 連 みのる

イエスに触れていただくために、人々が子どもたちを連れて来た。弟子たちはこの人々を叱った。イエスはこれを見て憤り、弟子たちに言われた。「子どもたちを私のところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。よく言うておく。子どものように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」そして、子どもたちを抱き寄せ、手を置いて祝福された。

(マルコによる福音書 10章13～16節)

ラビ (ユダヤ教の聖書の先生のことをこう言います)、ラビに祝福してもらうことは、常識として、願うことでした。日本でも相撲取りに抱いてもらうと、健康に育つというのと同じです。特に、最初の誕生日に祝福されることが、習慣だった。という七五三のようなものでしょうか。

人々が、子どもを祝福して欲しいと願って、主イエス・キリストの前に連れて来ました。その人々をイエスの弟子たちは叱ってやめさせます。どうしてでしょうか？

弟子たちは、主イエス・キリストが、子どもたちに煩わされることを心配した

のです。

今日の聖書の中で大事な言葉は『子ども』です。ちょっと前の聖書の説明の本には『子どもは、謙遜で従順で信頼する者である』という説明がありました。

つまり、『子どものようになりなさい』というのは、謙遜に、従順に、無条件に信頼する者にならなければ、神の国には入ることができない。という説明をするのです。

しかし、そういう教えでは、私たちは『それでは、誰が一番、謙遜に、従順か』を、秘かに競い合うことになるのではないのでしょうか。

これが日本の謙遜の美德と合致して、子どものように謙遜になりなさいという教えが出来上がったのです。

『あなたは、謙遜ですねえ。誉められることが嫌いですねえ』といって褒め合うのです。

『私たちクリスチャンは、謙遜でございます』と宣伝する。これでは、謙遜という一つの価値基準を誇り、争っているにすぎませんね。弟子たちが、誰が一番偉いかと議論している姿とちっとも違いない。

しかし現在では、このような読み方が間違っていることが分かっています。

「子ども」が無垢で罪が無く、清らかで、希望に満ちて、神に近い存在だと考えるようになったのは、世界史の中では、近代以後のことであって、2000年前の中近東の世界では、子どもという言葉に、そのような肯定的な意味は無かったのです。

確かに聖書の中には「女、子どもを除いて5000人にパンを配った」という言葉が書かれています。2000年前は日本では弥生時代でしょうか。世界には人権意識も男女同権という意識もありませんでした。そして「子どもは無垢」という意識もありませんでした。

「子ども」という言葉の意味は、無知、無能力、信仰もない、半人前、役立たず、でした。

このような常識の中で書かれた福音書なのです。

「天国は、このこどもたちの行くところである」というのは、無垢な、天使のような、未来を持った、子どものための、神の国ではないのです。

正しいこともできず、判断もできず、欲望のままに行い、能力もなく、役に立たない者たちが、選ばれて、救われて、招かれる場所こそ天国なのです。

イエス様は「私は罪人を救うためにこの世に来た」と言いました。

「罪人」とはどういう人でしょうか。

日本語で聖書を読んだのでは分からない意味が、隠されているのです。

「罪」と訳された言葉の意味は「見当違い」「方向違い」「的外れ」という意味なのです。

そして「罪人」と訳された言葉の本来の意味は「迷子」「道を見失った者」「見当違いをしている人」という意味です。

ですから「私は罪人を救うためにこの世に来た」という言葉の意味は、

私は、迷子のために来た。私は正しい羊飼いである。

道を失い、さまよう人々を正しい方向、良く生きられる方向へと導く者である。

という意味なのです。大人も子供も神様から見れば迷子の小羊なのです。

つまり、入れない者はない。どんな制限もない。権利も必要ない。決まりもない。信仰さえない。誰にでも開かれた神の国が、ここに現されたのです。

イエス様の示す、神の国を、信頼して、受け入れることが信仰です。

主イエスの現された『神の国』は、他の誰が示す天国とも違うのかもしれない。

普通に、私たちが考える天国とは、人間の世界ではなく、選ばれた者が行く、最高の、最善の、神様の世界です。普通の者は、入ることはできない。罪人はむしろ裁かれる地獄のような所に行くと考えます。

イエス様は、善悪を知らない、天国の価値も分からない人々が天国に入ると言うのです。

しかし弟子たちは、イエス様に近寄り子どもたちを妨げます。邪魔をします。するとイエス様は『憤った』と書かれて

います。この言葉は、ここでしか使われていない。

酷く怒ったのです。ここに、とても大事なことがあるのです。

イエス様が抱き上げようとする、弟子たちが間に入って、邪魔をするのです。私たちの、この世の思い。善意が、人の信仰心が時にイエス様の愛を妨げるのです。

教会が、神学が、教派がイエス様の愛を妨げる。牧師が神父が信者が、愛の邪魔をする。

ですから皆さんには、キリスト教の様々な知識を身につけるよりも、イエス様がどういう方なのか、そのことだけは知っていただきたいと願います。弟子たちではなく、イエス様に近づいて欲しいからです。ある大変有名な牧師が言いました。「私たちが信じるのは聖書でも教会でも神学でもなく、ただイエス・キリストなのだ」(カール・バルト)

弟子たちに、イエス様は憤る。それほどに、この世の人々を愛しているということでもあります。本当に愛するからこそ怒るんです。

この愛に感謝し、この愛を妨げることがないように、心がけて、主イエス・キリストに従いたいと願います。歴史の中

で、そして現代でも、教会が、キリスト しても、「どうぞ教会は嫌いになっても、
教徒が罪を犯し、人々を苦しめていたと イエス様は嫌いにならないでください！」

(えづれ みのる 日本基督教団豊田教会 牧師 2024.6.4 瀬戸チャペルアワー奨励)

新入生の皆さんへ

敬神愛人



(創立者 F.C.クライン)

「先生、律法の中で、どの戒めが最も重要でしょうか。」
イエスは言われた。『心を尽くし、魂を尽くし、思いを
尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが
最も重要な第一の戒めである。第二も、これと同じよう
に重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』
(新約聖書 マタイによる福音書 22 章 36～39 節)

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから皆さんは、
この名古屋学院大学でのキャンパスライフを過ごしていくことになり
ます。その上で、この大学の一員となった皆さんにぜひ知っておいてい
ただきたいことを簡単にお伝えしたいと思います。

私立の学校には、独自の理念、「建学の精神」というものがあります。
名古屋学院大学の建学の精神は「敬神愛人」です。これは、キリスト教
の聖典である「聖書」の言葉に由来しています。

敬神 … 神を愛し敬うこと。

愛人 … “隣人” を自分のように愛すること。

イエス・キリストは、この二つを大切にしなければならないと人々に
教えました。隣人とは、近しい人だけでなく自分以外のすべての人を指
すと理解されます。神は私たちを愛してくださっています。その愛をも
って、私たちは神を愛し敬い、また隣人愛として他者のためにも愛を向
けていく。これを本学の教育の基本にしているのです。

1883 年、アメリカからフレデリック・チャールズ・クライン (F. C.
Klein) という宣教師が、キリスト教の伝道と英語教育を目的として来
日しました。彼は、横浜に英語学校や教会を設立し、1887 年、次の着
任地として妻メアリーとともに名古屋にやってきました。彼らは、名古
屋に着いたその日から英語の学校を開いたと伝えられています。その
時、クラインがその教育の基本理念として掲げたのが、「敬神愛人」だ
ったのです。

「名古屋英和学校」と名づけられた彼らの学校は、1951 年、「学校法
人 名古屋学院」と名称を改め、そして 1964 年、わたしたちの名古屋

学院大学が誕生することとなります。

新入生の皆さんは、これから数年の間、本学の学生として様々なことを学んでいくことになりますが、勉学や研究、課外活動に勤しむのと同時に、本学の建学の精神「敬神愛人」という言葉を心に留めつつ、人間的に成長していくこともぜひ目標にしてください。

皆さんが、自分自身のことも大切にしつつ、他者を愛していくことができますように…。また、人間同士のかかわりだけでなく、人知を超えた存在に心を向けられるような謙虚で広い視野を持った人間性が、この大学でのキャンパスライフを通して養われていきますように…。

◆ チャペルへの招き ◆

各キャンパスに設置されている「チャペル（礼拝堂）」では、毎週、「チャペルアワー」というキリスト教の礼拝を行っています。聖書の御言葉と祈りを中心に、教職員や近郊の牧師さんたちによる奨励を聴くひと時です。チャペルアワーを通じて、世界の大きな文化の源流の一つである「キリスト教」という宗教の教えに触れ、これからの時代を生きていく上で大切な何かを感じていただければと考えています。

＜名古屋キャンパス	火曜日	13：00～13：30
しろとりチャペル＞	木曜日	12：30～12：45
＜瀬戸キャンパス チャペル＞	水曜日	13：00～13：30

チャペルや付設のキリスト教センターでは、チャペルアワーの他にも、学生活動や聖書研究会、宗教講演会、コンサートなど様々な行事を行っています。詳細はキリスト教センターの掲示板をご覧ください。

チャペルの開館時間は、原則、平日の「8時45分～16時45分」です。皆さんのための空間ですので、最低限のマナーは守りつつ、気軽に利用してください（大声でのおしゃべり、飲食はご遠慮ください。）

ピアノは練習のためであれば使用可能です。また、パイプオルガンの使用については、必ず事前にキリスト教センターにご相談ください。

チャペルの中で静かに自分と向き合い、語りかけ、そして内なる声に耳を傾けると、新しい導きをそこに見出したり、また何か発見があるかもしれません。ぜひ、チャペルに足を運んでみてくださいね。

チャペル・ブックレット

宗教部では今までの「宗教講演会」等のお話をブックレットにまとめています。ご希望の方は、キリスト教センターへお問い合わせください。
大学ホームページからもPDFファイルでご覧いただけます。

- No.1. 「経済の論理と人間の論理」(塩沢 美代子)
- No.2. 「心を問い続けて」(谷 昌恒)
- No.3. 「国際化時代におけるキリスト教の使命」(徐 洗善)
- No.4. 「激動化する現代史と神のみことば」(池 明観)
- No.5. 「生きることの感動」(金 纓)
- No.6. 「生きるよろこび」(村田 佳寿子)
- No.7. 「心を支えているもの」(山本 将信)
- No.8. 「主の愛この眼にありて」(武岡 洋治)
- No.9. 「日本におけるキリスト教主義大学の使命」(池 明観)
- No.10. 「いのちを支えるホスピスケア」(相木 哲夫)
- No.11. 「天と地のひびき」(小塩 節)
- No.12. 「絵本のちから」(松居 直)
- No.13. 「ハイジ、クララは歩かなくてはいけないの？」
ーこどもの物語と聖書に見られる<しょうがい者>差別ー
(荒井 英子)
- No.14. 「お父さん、僕はなに人？一問(はざま)から読む聖書ー」
(金 永秀)
- No.15. 「人権・生命の尊厳ー野宿生活者の現場からー」(松本 普)
- No.16. 「地球に、そして日本に生まれて今ここにいる」(太田 信吉)
- No.17. 「メイク・ア・ウィツシュ〜夢の応援団」(原 順子)
- No.18. 「人間関係を生きる知恵」(島 しづ子)
- No.19. 「命のことば」(水谷 誠)
- No.20. 「宗教が戦争の原因？ー神教がアブナイ？」(桃井 和馬)
- No.21. 「福田敬太郎ー神に向き合った生涯」(小野 静雄)
- No.22. 「F.C.クラインと『敬神愛人』」(黒柳 志仁)
- No.23. 「祈りつつ学び、感謝しつつ働く」
ー内村鑑三、名古屋英和学校赴任のころー(葛井 義憲)
- No.24. 「NHK連続テレビ小説『エール』とキリスト教」
キリスト教主義大学が大切にしたいことー『敬神愛人』(西原 廉太)
- No.25. 「『迷い出たダンゴムシのたとえ』がわたしたちを生かす」
(早瀬 和人)
- No.26. 「中山間地のソーシャルワーク」(越智 祐子)
- No.27. 「キリスト教学校が大切にしてきたことー神の言葉はとこしえに立つー」
(神山 美奈子)